

令和3年度第2回 岐阜県生涯学習審議会 議事録

日 時	令和3年11月8日（月） 14:00～15:30
場 所	OKBふれあい会館4階403小会議室
出席者	<p><委員> 11名（欠席委員2名） 浅野委員、衣斐委員、奥村委員、後藤委員、小林委員、内木委員、丹羽委員、野原委員、福田委員、米原委員、若岡委員</p> <p><県> 5名 内木環境生活部長、山田環境生活政策課長、長屋環境生活政策課生涯学習企画監、山田環境生活政策課係長、高井環境生活政策課主査</p>

会議の概要

1	開会
2	<p>挨拶 （内木環境生活部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、行動が制限される中でも「生きがづくり」として生涯学習に関する事業を進めている。 ・地域の課題解決や地域が活性化のために活動される方々が増えていくような生涯学習の方向性に向けて、市町村や地域の方々とともに進めていけるよう支援をしていきたい。 ・本日はそれぞれの経験や立場から、忌憚のないご意見をいただきたい。
3	<p>会長挨拶 （丹羽会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナで活動が制限される中であるが、明るいニュースもある。 ・指針の改定内容について、前回審議いただいているが、みなさんの普段の活動も含めて話していただきたいと考えている。
4	<p>議事</p> <p>（1）令和3年度主な事業と進捗について 事務局による説明を行った。</p> <p>（2）岐阜県生涯学習振興指針の改定について 事務局による以下の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により社会情勢が大きく変化したため、本指針についても今の状況を反映させたものにしたい。そのため、改定時期を来年10月としたい。 ・次期指針の全体構成案、基本理念案、基本方針案については、前回審議を行い、内容について了解をいただいている。 ・前回、委員の皆さまからの意見を踏まえ、追加・修正を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーの平等についてわかりやすく触れること。 ・包摂性のある持続可能な社会の実現を図る内容をわかりやすく盛り込むこと。 ・ICTの活用を盛り込むこと。 ・コーディネーター派遣事業について具体的に明示すること。 ・社会教育委員の会についても触れること。 ・社会教育士について説明を行った。 ・社会教育施設の役割について整理した。

また以下のとおり発言があった。

(丹羽会長)

説明内容の確認を行った。

- ・ 指針の改定時期についての確認。
- ・ 前回の審議会の内容を踏まえてこのような内容で素案の作成をしてよいか。

(奥村委員)

- ・ 個人がすべきこと、行政がすべきことを明確にした方がよいのではないかと。カテゴリー分けをしてほしい。
- ・ 個人がすべきことを明確にすれば、県民にとって何をすべきかがわかり、安心感と達成感が得られる、わかりやすい指針となるのではないかと。
- ・ 指針の変更点として、仕組みを変えるのか、質をよくするのか、内容を変えるのか、明確にするとよい。
- ・ 連携・仕組みを変えるなどの言葉が散在しているとわかりづらいので、すべきことが、タイトルで出てくるとわかりやすい。
- ・ 誰が何をどのように行うかを明確にすると、結果として実用性のある指針となるのではないかと。また、評価もしやすくなると思う。

(長屋企画監)

- ・ 今回示したのは、第2章の「基本理念、基本方針、施策体系」になるので、誰が何をすべきかの役割等については、第3章「各主体の役割」で明確にする。
- ・ いただいた意見をもとに、わかりやすく明確にしたい。

(小林委員)

- ・ カテゴリー分けをわかりやすくお願いしたい。
- ・ SDGsに関する施策においても、目標を達成するためにすべきことを明確にするとよい。
- ・ 数を多くするよりも、絞って取組んだ方がよい。
- ・ 市町村におろしたときに何をを行うかわかりづらいので、どの単位（地域）を対象としているのかわかるとよい。
- ・ 県として、市町村に求めることなのか公民館に求めることなのかを明確にしたほうがよい。

(長屋企画監)

- ・ 皆様が実践されている取組において、下記の視点で指針の内容に生かせることがあれば教えていただきたい。
 - * ICTを活用した学びの在り方
 - * 子ども・若者の主体的な参画、多世代交流の取組
 - * 「命を守る」生涯学習（防災・感染症等）
 - * 学びの活動をコーディネートする人材（社会教育士等）の活躍の推進

(若岡委員)

- ・ 休校期間中のオンライン授業は、子どもたちは集中して学習できていない。
- ・ それを補うのが家庭教育であるが、困難な家庭もある。
- ・ 貧困家庭等について、コロナでますます格差社会がはっきりしており、深刻な家庭の支援を行っている。
- ・ 孤立させないことを念頭に活動している。

(米原委員)

- ・ ICTを活用した学びを進めている。
- ・ オンラインと録画したものの配信の併用をしている。
- ・ 遠隔だからできること、オンラインだからやらなければならないこと（スキル）がある。
- ・ オンラインでのトラブルへの対処も求められる。
- ・ 「地域づくり」を進めるにあたっては、市町村によって温度差がある。

- ・行政からはサービスを受けるだけなのか双方向で行うことなのか、意識の持ち方による。
- ・住民が地域社会に参画しているという意識を高めることが大切なのではないか。

(福田委員)

- ・子ども館が新設される。建設にあたって、多くの町民が参加し意見を交わすことができた。
- ・子どもたちが守られるよう子どものための子ども館であるように、子どもたちの意見を取り入れた子どもの権利条例が制定された。
- ・子どもたち自身が参画することを身をもって体験させることができた。
- ・地域住民に知ってもらえる条例にするためにどうしていったらよいかを課題にしていきたい。
- ・支援が必要な家庭をどう支援するかが課題である。
- ・フードドライブなど、行える人が行える形で行っていくことが大切である。
- ・コミュニティ・スクールでは、どうやったらうまくいくのか現実として見えてこないことが悩みであり課題であるので、事例を知りたいとの声が多い。

(野原委員)

- ・コロナ禍において事業が中止となったが、再開されると参加したいという市民が多くいた。
- ・オンラインと対面は、線引きをした上で、どうやって両輪を進めていくかが大切である。オンラインが適するもの、対面が必要なものをきちんと検討する必要がある。
- ・地元の子どもたちが活躍できる場を提供していけたらよい。
- ・防災に関して、中学生対象のジュニア防災リーダー養成講座を行っている。地域との連携を図っていきたい。公民館と連携しながら進められたら良い。
- ・人材育成は課題があるが進めていくべきことである。

(内木委員)

- ・地域と学校がどう連携するとよいか、学びを止めないための活動を行っている。
- ・骨子案については、非常に細かく作成されているが、全体像が見えてこない。
- ・学びを止めないためにどうすればよいか、新しい価値観で発想を変えて考えていく必要がある。
- ・これからの生涯学習の方向性を、学びを止めないことを中心にしたらよいのではないか。
- ・市町村と連携して、行政側からアプローチできるシステムを作ることができたらよい。

(小林委員)

- ・ICTの学習において問題点もいくつかある。受け手側の環境整備、成績の2極化等。
- ・オンライン授業を行うには学校側の整備だけでなく、生徒側の整備も必要であり、子どもたちの学びを保障しなければならない。
- ・いじめ、不登校等、分散登校による弊害もあった。
- ・防災に関しては、事後対応の整備だけでなく、事前対応の整備も必要である。
- ・生涯学習の中で、避難経路の確認など、事前にできる取組を進めていくとよいのではないか。
- ・ICTを活用した授業もよいが、やはり対面授業の良さもあり、出来れば対面で行いたいという思いがある。

(奥村委員)

- ・オンライン授業は、家庭で親が子どもにつきっきりであった。仕事に行けない、何もできないという声も聞いている。オンライン授業はうまくいったのか、検証ができていない。
- ・コロナ禍で、プラットフォームがなかったこと、相談の場がなかったことが、最前線で活動をしている人たちの悩みであった。後押しもアドバイスもなく、すべてが自己責任で任せられた。誰もが経験したとがない状況の中、方向性なり、アドバイスなり、他府県の事例なりあれば、もう少し動きやすかったのではないか。
- ・求められる人材は一つであり、環境問題の計画と重なる部分があるので、個々の視点で考えるのではなく、大きな幹で考えてほしい。その方が会議における意見交換も活性化するのではないか。
- ・おかれた立場で助け合うことこそ生涯学習の一番の根本理念である。

(衣斐委員)

- ・「地域づくり型」はわかりづらいが、一人一人が自分事と捉えて、何か一つでも地域のことを行ってみることが大切ではないかと思いつながりながら活動している。
- ・世界の岐阜県人会とつながる取組を行っている。世界で自分なりの人生を送っている大人たちの声を身近な生き方として子どもたちに伝えたい。
- ・そういった人たちの思いがあり、来年度オンラインで世界大会が行われる。

(浅野委員)

- ・誰が何をするのかを明確にするとよい。
- ・また、自分の立場としてできることを考えていきたい。
- ・生涯学習で大切なことは、自分で考えて創造して行動していけることであり、そうした力を身につけることである。
- ・コロナ禍で、できる喜び、ありがたさを知ることができた。当たり前が当たり前ではないことを知ることができたことが副産物でもある。
- ・水道やトイレなど自動化され、便利な世の中になっているが、なぜなのかを考えることができる仕掛けをつくり、学びにつながるようになっていきたい。
- ・田植え、稲刈り、脱穀など、実際に体験活動をして、子どもたちが興味関心をもって自らどうしたらよいか考えることができた。子どもたちは目の前にあることに対して、興味関心をもって、学ぶ意欲が引き出される。
- ・自ら学ぶ姿勢をどう作っていくか、求められる役割について考えていきたい。

(後藤委員)

- ・行政と民間の立場には距離があるので、骨子案は行政の立場からよくまとめられているが、民間の立場からは手が届いていないように感じるのではないか。
- ・「地域づくり」は「豊かなくらしづくり」である。
- ・地域の人々に対してはわかりやすい言葉に変えていく必要もある。
- ・一般の人にはオンライン会議システムを使った会議とか講座はあまり一般的でなく、多くの人が活用できないのが現状である。ICTの活用は、もっと一般市民から湧き上がってくるものも含まれるのではないか。
- ・ブルーベリー、ブラックベリーづくりプロジェクトの中で、SNSを活用し、双方向でのやり取りを行っている。応募申込をした結果、ビラ配布より多い申込となった。コミュニティが広がったと実感している。

(丹羽会長)

- ・事務局には、本日の意見をまとめていただき、素案を策定していただく。

(以 上)